

## 災害時のボランティア活動について

災害救援ボランティア活動には大きな期待が寄せられますが、一方で、ボランティア活動が被災地の人々や他のボランティアの負担や迷惑にならないよう、ボランティア一人ひとりが自分自身の行動と安全に責任を持つ必要があります。災害救援ボランティア活動に参加する際の基本的な注意事項をご確認いただき、参加する際の参考として下さい。

1. 災害救援ボランティア活動は、ボランティア本人の自発的な意思と責任により被災地での活動に参加・行動することが基本です。
2. まずは、自分自身で被災地の情報を収集し、現地に行くか、行かないかを判断することです。その際には、必ず現地に設置されている災害救援ボランティアセンターの状況を確認し、ボランティア活動への参加方法や注意点について把握してください。
3. 被災地での活動は、危険がともなうことや重労働となる場合があります。安全や健康についてボランティアが自分自身で管理することであることを理解したうえで参加してください。体調が悪ければ、参加を中止することが肝心です。
4. 被災地で活動する際の宿所は、ボランティア自身が事前に被災地の状況を確認し、手配してください。水、食料、その他身の回りのものについてもボランティア自身が事前に用意し、携行のうえ被災地でのボランティア活動を開始してください。
5. 被災地に到着した後は、必ず災害救援ボランティアセンターを訪れ、ボランティア活動の登録を行ってください。
6. 被災地における緊急連絡先・連絡網を必ず確認するとともに、地理や気候等周辺環境を把握したうえで活動してください。
7. 被災地では、被災した方々の気持ちやプライバシーに十分配慮し、マナーある行動と言葉づかいでボランティア活動に参加してください。
8. 被災地では、必ず災害ボランティアセンターやボランティアコーディネーター等、現地受け入れ機関の指示、指導に従って活動してください。単独行動はできるだけ避けてください。組織的に活動することで、より大きな力となることができます。
9. 安全性を確保し、自分にできる範囲の活動を行ってください。休憩を心がけましょう。無理な活動は、思わぬ事故につながり、かえって被災地の人々の負担となってしまいます。
10. 備えとして、ボランティア活動保険に加入しましょう。
11. 復旧の主体者は、被災者自身であり、ボランティアはあくまでお手伝いです。活動内容について、依頼者と十分話し合いをし、対応が難しい活動への要請やトラブル等が発生したら、災害ボランティアセンターまで連絡して下さい。

ボランティア個人が用意するもの (例)

品目	用途	備考
弁当	自分の食事	
飲み物	自分の飲み物	
ボランティア保険料	ボランティア自身の怪我等の保険	
軍手	作業する際に必要な軍手	
長靴	雨天時	
カッパ	雨天時	
帽子	熱射病、熱中症対策	
	雨天時の視界の確保	
タオル	汗拭き	
マスク	現場で作業するとき	
着替え	現場で作業して汚れたときの着替え	
携帯電話	連絡のため必須	
保険証の写し	けがをして医療機関にかかる場合	
メモ帳		
筆記用具		
着替え		
常備薬		
ゴム手袋		
リュック		
運転免許証等	身分を証明するもの	
現金		
懐中電灯		
携帯ラジオ		
現地の地図		
防寒具		
寝袋		
自分の食器類		
ティッシュペーパー 類		
上履き		
ビニール袋		

あくまでも、最低限の必要備品(例)です。それぞれの実情に即して判断して下さい。